

活動状況報告書（10月分）

学生留学コース 6期生 植谷 賢太

9/21(木)に日本を出国してドイツのフランクフルトに向かいました。飛行機が北極圏に近づく中、ふと窓から外を眺めるとオーロラを見ることができ、留学の不安も少し和らぎました(写真1, 2)。飛行機がロシア上空を飛行できないので、ロシアよりも高緯度地域を飛行するため、戦争中の今しか見ることができないとGAさんに教えていただき嬉しいような悲しいような複雑な気持ちになりました。フランクフルトはとても寒く半袖短パンなのは自分だけでした。スペインは暖かいだろうと思い軽装でしたが失敗したなと感じました。その後、飛行機を乗り換えて目的地のスペインのバレンシアに到着しました。バレンシアは地中海沿いの温暖な気候の都市で、スペインではマドリードとバルセロナに次いで3番目に大きな都市です。パエリア発祥の地でもあり、今年の10月初旬に行われたパエリアの世界大会では日本人シェフが優勝したというのを聞いて少し誇らしい気持ちになりました。

バレンシア到着後、早速CEU Cardenal Herrera大学のSalvatore Sauro教授にお会いをして今後の実験計画等をディスカッションしました。Sauro教授とは以前から面識がありました。歯科材料学研究の第一人者で44歳と若く、論文も数多く出されていて、多くの大学との共同研究も精力的に行われています。私が知っているイタリア人の中で一番真面目な方で、休みの日にもこの論文を読んだ方が良いとメールを送ってくるので嬉しいような悲しいような気持ちにここでもなりました。一方で、初めてお会いしたときに、スーツで伺ったのですが、ここではネクタイは無しだと言われたのがイタリア人らしいなとも感じました。いずれにせよ面識もあった分、話もしやすく研究しやすい環境だなと安心いたしました(写真3)。

スペイン入国後落ち着く暇もなく、学会発表のためアメリカのサンディエゴに10/3~7日まで滞在しました(写真3)。歯科材料学会では世界的に最も大きなもので、Sauro教授と北海道大学の自分が所属している教室のMonica教授と参加してきました(写真5)。世界中から多くの大学院生も参加していましたが、日本人の大学院生は私一人で、日本の歯科材料学の未来を憂慮しました。一方で、招待講演者として来られていた東京医科歯科大学の平石教授(写真6)と大阪大学の山口教授(写真7)には日本人学生が少ない分大変お世話になりました。また写真にも登場するイギリスのマンチェスター大学のJukka教授は、もともと香港大学の歯科材料学の教授をされていた先生です。自分が学部生のときに香港大学に短期留学をさせて頂いたご縁もあって仲良くさせていただきました。フィンランド人の先生でとても日本の文化に詳しく簡単な日本語も話すことができます。フィンランドが親日国であることを再認識しました。北海道大学にもフィンランド人の留学生が割合多く、またコロナ前は新千歳空港からフィンランドまでの直通便があったことも記憶に新しいです。

学会発表が終わってスペインに帰国してから、現在に至るまでは毎日論文を読みながら、情報収集を行い、Sauro先生とディスカッションをして研究を進める毎日です。私が所属しているスペインの研究室ではSauro先生と台湾からの留学生のJeff、私の三人と少数精鋭です。Jeffはスペインの歯科医師免許を持っているので臨床で忙しいため、研究室に来ることはそれほど多くないです。そのため基本的にはSauro先生と自分の二人で研究を進めることが多いですが、人数が少ない分相談しやすいのは研究を進める上で良いことだなと感じます。一方で日本とヨーロッパの研究の進め方を比較したときに、日本では自分たちの大学・教室だけで研究を遂行して完結させようという流れが強いですが、ヨーロッパでは多くの大学で仕事を分担して効率的に研究を進めていこうという流れがあるように感じます。多くの大学で共同研究を行なった際に問題になるのは誰が論文の第一著者(論文の著者のリストの一番初めの人)になるのかということですが、ヨーロッパでは第一著者になることよりも、どれだけ多く論文を書いて、他の大学と共同研究をしていくのかという方に重点が置かれているように感じました。国際共同研究は日本でも近年重要視されてきております。世界の大学ランキングを決める上でも重要な項目です。今後日本が歯科材料学の研究で世界を牽引する意味でも、自分を初め多くの若手研究者がより世界に羽ばたいていくこと、それが北海道・日本の歯科産業・医療の発展にも繋がっていくのではないかと感じた1ヶ月でした。

最後になりましたが、10/21にスペイン南部のグラナダ地方にあるムランセン山(3482m)で私の趣味の登山をしてきました。スペイン本土では一番標高が高い山です。頂上から見た景色は格別でした。一方でスペインでも雪が降るのだなと寒さも感じました(写真8)。

写真1 機内からみたオーロラ



写真2 北極圏に近づく飛行機



写真3 Sauro 教授と自分



写真4 学会発表の様子

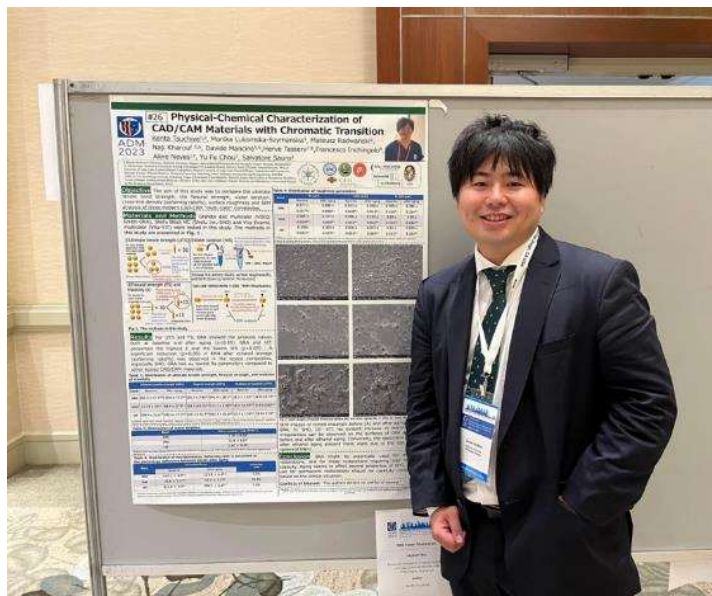


写真5 Sauro 先生、Monica 先生、自分、企業関係者様 食事会様子



写真6 自分、マンチェスター大学 Jukka 先生、医科歯科大学の平石先生



写真7 自分、マンチェスター大学の Jukka 先生、大阪大学の山口先生



写真8 ムランセン山 頂上

